

# 高速交通時代

## 小坂インター増設決まる

### 県北部の経済、文化等の発展に大きな役割

今年7月、全線開通が予定されている東北縦貫自動車道に「小坂インターチェンジ」が増設されることが、1月21日の国土開発幹線自動車道建設審議会で決まりました。インターは、当市から最も近い距離に位置し、当市はもちろん県北部の経済や文化、観光の発展に大きな役割を果たすことが期待されます。



地域経済の活性化のために十和田・碓ヶ関インター間にインターの増設を、昭和五十六年十二月に東北三市三郡十八市町村と青森県の三町村を合わせた二十一市町村で「小坂インターチェンジ増設促進期成同盟会（会長・畠山大館市長）」を設立し、県などといっしょに小坂インター増設の運動を進めてきました。

その増設理由としては、国立公園十和田湖への最短距離にあり、大館市を中継した広域的な観光の拠点として重要である。県北部の非鉄金属鉱山群の開発や関連産業の導入、輸出入鉱産物の運搬のうえ重要である。十和田・碓ヶ関インター間が約二十九キロもあり、この自動車道の中で最も長く、この間をカバーする救急病院までは約四十キロもあり、積雪寒冷地の山間部を通過する路線事情からしても、小坂インターを利用した救急医療機関が重要な意義をもっている。

などのメリットをあげて陳情運動を展開してきました。

その結果、先月二十一日開かれた国土開発幹線自動車道建設審議会で、小坂インターを含めた六カ所の増設が決まったものです。小坂インターが完成することにより、当市の中心部からは約二十キロの距離となり、十和田インターより約五キロも短縮されます。そして、県北部も本格的な高速交通体系に組み込まれることになり

## 期成同盟会を設立

### 日本海沿岸縦貫自動車道秋田県北部内陸ルート

日本海沿岸縦貫自動車道の建設促進と秋田県北部内陸ルートの実現を目指すとして、先月十七日、県北二市三郡十七市町村で「秋田県北部内陸ルート建設促進期成同盟会（会長・畠山大館市長）」が設立されました。



内陸ルート実現に向けて運動していくことを決めた設立総会

**2月の各種相談日**

交通事故・10日、18日、25日、  
(9時半～15時半)

法律・18日(9時半～15時半)

家庭教育・月曜日(9時～16時)

社会保険・水曜日(10時～15時)

国 税・25日(10時～16時)

ところ——市役所会議室

日本海沿岸縦貫自動車道は、国幹線道路網構想の中で計画されているもので、新潟から秋田市までは沿岸ルートが想定されていますが、秋田市以北については白紙状態になっています。そこで、このたび設立された期成同盟会では、県都秋田市との距離を縮め政治、経済、文化などの密着した交流を図るために、県北部内陸ルートを実現させようと国会や建設省などに積極的に陳情運動をしていくことにしました。

## 市長の対話ノート



No.124

### 遅ればせながらも

宿願であった小坂インターチェンジ増設が決まりました。市民のご理解とご協力が深く感謝申し上げます。これは単にインターだけにとどまらず大変大きな意義があります。

それは先月十七日に発足しました、日本海沿岸縦貫自動車道・秋田県北部内陸ルート建設促進期成同盟会との関係であり、東北縦貫道との接点を間近にするというところであります。当然のことながら県都秋田市との政治、経済、文化の交流はますます大きくなります。現在のままでは青森へ一時間、盛岡へ一時間半、それに引きかえ秋田市へ二時間半では県都の使命、機能を失うこととなります。なんとかして全県市町村から一時間圏の道路網をとらなければ、その機能を果たすには内陸ルート実現より他ありません。

しかし、青森県と綱引きをしていればルート決定は先送りになりますので多角的に早期に調整を行いたいと存じます。

私たちは、エゴとして内陸ルートを主張するものではありませんし、県内ルートで、また市町村間で綱引きをやつてはならないと思います。個々の問題や利害はアクセス道路の整備によって解決出来ることですので、市民の皆様からも深いご理解とご支援をお願い申し上げます。

畠山大館市長